

# オウム対策住民協議会ニュース

烏山地域  
オウム真理教対策  
住民協議会

## オウム真理教対策関係市区町連絡会総会が開かれる

6月6日(木)、午後2時から足立区北千住駅前のシ  
アター1010アトリエで、オウム真理教対策関係市  
区町連絡会の総会が開催された。

世田谷区をはじめ加入の24の市区町とオブザーバー  
で出席の札幌市、6ヶ所の対策住民協議会が参加して  
開かれた。

はじめに、副会長の世田谷区から山本鳥山総合支  
所地域振興課長の開会宣言があり、続いて会長の近  
藤足立区長より、4月にアレフに10億2900万円  
の未払い賠償支払いの一番での判決があり、足立区で  
も条例による報告義務違反に対する過料の支払い裁  
判で、勝訴したとの挨拶があった。

議事では、決算、役員改選、今年度の活動方針、予算  
について検討され、議案は全て異議なく了承された。

今年度の役員は、会長が足立区(再選)、副会長は  
杉並区と八潮市、監事に東御市と甲賀市となった。活  
動方針は、引き続きアレフ・ひかりの輪・山田らの集  
団に対して、活動を認めず、利益や施設を与えず、解  
散させる法律の制定要請を行い、未加入の自治体へ  
の参加協力の要請をしていくこととなった。

総会后、公安調査庁から、全国の信者数は増加傾  
向にあり資産も増加しており、今後も活動を引き続  
き観察する必要があると説明があった。

つづいて、各市区町からの現況報告と住民協議会  
からの意見交換があり、札幌では2月に住民協議会  
ニュースが発行されたことや、施設の周りの民家やマ  
ンションにも移り住んでいる信者が増えているとの報  
告があった。他の協議会からも昨年の麻原らの刑の執  
行後の状況などが報告され、ひかりの輪の動きでは、

世田谷、福岡、大阪、滋賀、長野での行動な  
どが報告された。  
また、オブザーバー参加の札幌市には、今  
後どのような方針で市は対応していくのか  
などの意見が出るなど、活発な意見交換が  
行われ午後4時に終了した。

連絡会終了後さらに会場を移して、参加  
協議会の懇親会を開催した。ここでは、さらに具体的  
で詳細な活動内容の情報交換が行われ、札幌の協議  
会からは、ぜひ札幌に来て応援してほしいとの要請が  
あり、参加した全協議会が協力することを確認して  
終了した。



## 夏の募金活動にご協力ください —のぼり旗と黄色のタスキが目印です—

皆さんから頂いた募金は、住民協議会活  
動の継続には、なくてはならないものとなっ  
ています。今年の夏も地域のお祭りや、イベ  
ントが数多く計画されていますが、住民協  
議会のご婦人を先頭に、オウム真理教後継  
団体の解散・解体のための募金活動で各会  
場に伺います。おなじみの黄色のタスキと、  
のぼり旗が目印です。見かけた時にはぜひ一  
声かけてください。また、お祭り・イベント  
を主催する団体の方々には、毎年募金活動  
の場所を提供していただくと共に、様々な  
便宜を図っていただいていることに、改めて  
お礼申し上げます。さて烏山地域に居住し  
ているオウム真理教後継団体は、ひかりの輪  
と言いまして、1995年の地下鉄サリン  
事件後に、広報担当としてテレビに出まく  
り「オウム真理教がこんな事件を起こす訳  
はないでしょう」と、テレビ画面で言い訳け  
していたのは未だに記憶に新しい。今でこそ  
歳を重ねてしまつて、24年前とは比べようも  
ないが、弁解をする姿に、当時は追つかけも  
出る社会現象となりました。その男こそひ  
かりの輪代表の上祐史浩ですが、今でもこの  
地で居座り続けています。現在ひかりの輪  
だけとなっていますが、以前はアレフと言う  
団体もいて、多い時には130人が南烏山  
6丁目のマンションに居住していました。私  
たちはこの団体の「解散・解体」を目標に最  
後まで頑張ります。皆さんの温かいご支援  
ご協力をお願いいたします。

## 感想文「ひかりの輪で経験したこと、その本質」に参加して 北烏山7丁目在住 寄稿

いつからでしょうか、住民協議会主催の、オウム真理教に対する学習会に参加したのは、38回目となる今回は、ひかりの輪元信者の体験談と聞き、大変興味がありました。あの凶悪な地下鉄サリン事件は、今でも鮮明に覚えています。弁護士の滝本氏の講演は、以前に何度か聞きましたが、ひかりの輪元信者の中山さんとの対談に新鮮さを感じ、期待が増しました。サリン事件を引き起こした、オウム真理教と上祐に興味を持ち入信したという。対談を聞いているうちに、共同生活・家族との関係・仕事・財産の提供などはどうしていたのかと、素朴な疑問が頭をよぎる。しかしひかりの輪や上祐に疑問をもち、質問をするなかでスパイ扱いされ、脱会に至る体験談を熱心に語る姿は心に響きました。オ

ウム真理教・アレフ・ひかりの輪と、次々と名前を変え生き延びる団体はなかなか理解できません。でもはっきり言える事は、麻原の信念を引き継いだ団体だと言うことです。中山さんのように、教団に興味を持って入信しようと思う人がまだまだいるのが現実です。中山さんも「ひかりの輪を社会に認めさせない運動、住民協議会の活動は絶対に必要」と結んでいました。勇気ある中山さんの話は、私達の背中を押してくれました。これからも、より多くの若者が学習会に参加し、関心を持ってもらいたいです。教団の恐ろしさを伝える運動が、時代を超えて解散まで活動が続いていく事を、烏山に住む住民として望んでいます。

## 「第10回からすやま下町まつり」での募金活動に参加して

6月1日(土)、ケヤキ並木に薄日が差し込む中、世田谷文学館と南側道路で第10回「からすやま下町まつり」が開催されました。「漫画家・石ノ森章太郎展」が企画されている世田谷文学館には、開場を待つ人の長い列が出来て、このおまつりを楽しみにしている様子が伝わってきました。

「地域の絆で繋げよう!! 子育て、見守り、防災!!」をテーマに掲げ、地域を支える様々な団体に関わり、絆づくりの大切さを伝える素晴らしいおまつりになっていると感じました。

模擬店コーナーや地元の野菜の即売を目当てに来た方や、お祭り広場で、子ども達のダンスやギター演奏を楽しみにしている方で、あっという間に会場は賑やかになってきました。

私達もジャズの生演奏が流れる中で、心地良く募金活動をさせて頂きました。それは、いつも本部テント内を提供して下さる烏山下町会のお陰と感謝しております。お世話になりました。

タスキをかけた私達にそっと近づいて募金をして下さる方や、顔なじみの方に「いつもご苦労様、頑張ってるね!」とお声を掛けて下さ

ることも、私達にとりまして元気を頂ける大切な場となっています。

この活動を通して、地域の皆さまの温かさにもいつも気付かせて頂いております。これからも皆さまのご協力に感謝し、活動を続けてゆきますので、今後ともご支援を宜しくお願い致します。



## サリン被害者に風化はない②

寄稿

果たして私達は松本・地下鉄サリン事件被害者のことを、どれほど知り、理解しているのだろうか。事件から25年が経過したが、改めて問われると、恥ずかしくなるくらい知らない。オウム真理教については、マスコミが新聞・テレビで事あるごとに知らせてくれるが、ことサリン被害者については情報が乏しく、知るには別の手立てが必要となる。オウム真理教事件では、加害者がいて、多くの被害者が存在することは分かっている、なぜか元教祖麻原彰晃を始めとした、信者に目がいってしまう。一般的な裁判でも、加害者の裁判がクローズアップされるが、被害者のことは

関心が薄くなる。報道の手法にも問題があるが、一人一人が自身自身の問題として関心を持たなければならない。松本・地下鉄サリン事件では21人が命を落とし、6600余人が負傷している。加害者に比べれば、圧倒的に被害者の数が勝る。そして今でもサリンの後遺症で寝たきりの人、電車に乗れない人、職場に復帰出来ない人がいることは、それほど広く知られていない。オウム真理教や、洗脳された信者については、語り継がなければならないが、オウム真理教事件の「被害」は今でも続いている。

★皆さんのこの欄への投稿をお待ちしています。

## 住民協議会活動報告

6月24日(月) 編集会議 協議会ニュース187号初校正  
6月25日(火) 実行委員会

7月1日(月) 編集会議 協議会ニュース187号再校正  
7月5日(金) 事務局会議  
7月9日(火) 協議会ニュース187号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。